

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

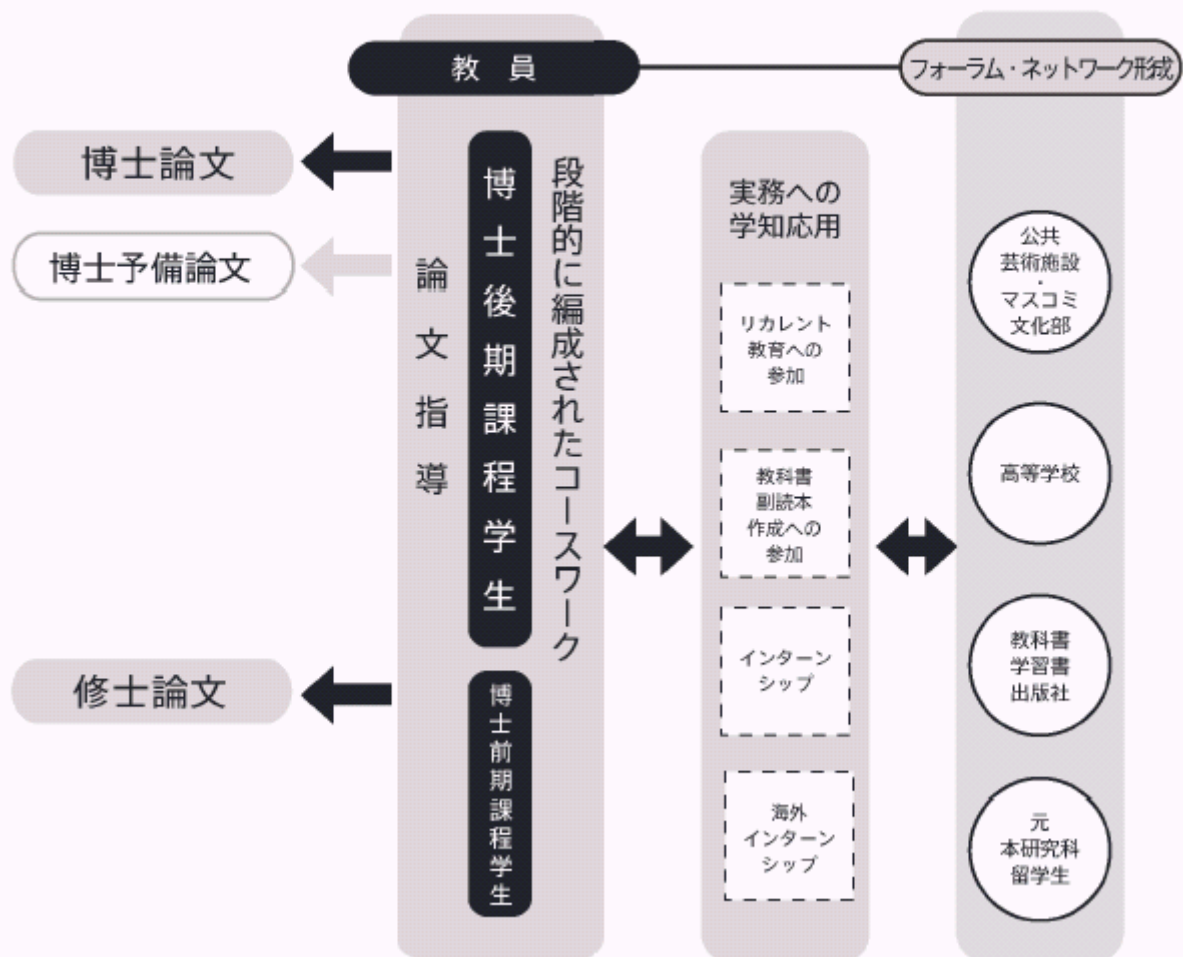
◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	大阪大学	整理番号	a015
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	ソーシャルネットワーク型人文学教育の構築		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 哲学、文学、史学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (美術史、芸術諸学、各国文学・文学論、比較歴史学、世界史)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 文学研究科・文化表現論専攻 [博士前期課程] [博士後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 柏木 隆雄	
	(その他関連する研究科・専攻名) 文化研究科・文化形態論専攻 [博士前期課程] [博士後期課程]		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本研究科は、文学研究科としてはわが国有数の規模を有し、わが国の人文学研究をつねにリードしてきた。現在、大阪大学は、文系の教育・研究のさらなる拡大充実に力を注ごうとしており、そのため全学の研究推進室に<文系分野>および<文理融合分野>の先端的研究のための戦略ワーキングが設置された。本研究科は、人文学教育・研究の全学における中核として、COE研究「インターフェイスの人文学」でも拠点の役割を果たしてきた。また、本研究科と海外の高等教育・研究機関との学術交流は、大阪大学の国際交流の重要な部分を担っている。本研究科には、人文学の教育・研究の拡充に寄せるこうした全学の期待に沿って、資金、人員、施設に関しては、今後も全学の配分基準による従前の措置を約束しており、教育の高度化についてもこうしたリソースを活用することができよう。その上で、特定の事業については、必要に応じて資金交付で支援することも考えている。</p>			

機 関 名	大阪大学	整理番号	a015
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>本研究科では、以前から各専門分野で最先端の研究を発展させるよう指導に努めてきたが、1999年に大学院重点化が行われて以降、部局全体での大学院教育の組織化にも努力している。まず課程博士学位の取得を促進するべく、関連する諸制度を定めた(博士予備論文制度、公開審査など)。また博士前期課程修了後に就職する学生のための就職指導を開始した。2003年からは高度専門職業人養成を見据えた授業科目を設置し、インターンシップの組織化も行っている。2004年度からは「教育支援室」を開設し、教育と就職の支援体制を強化した。さらに2005年度からは各専門分野で年度教育目標を定めることとした。他方で、広域文化形態論、広域文化表現論両講座に三つの学際的な研究会(学生も参加)を組織し、博士後期課程学生の問題意識を活性化するとともに、研究成果の広域的な発信を促している。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>本研究科は、21世紀の世界で人文学を創造的に発展させられるような研究者の育成をめざす。このためには学生が専門分野における学力に限らず、さまざまな能力を身につけるよう促さなければならないが、今回の応募に当たっては特に、本研究科と諸組織との連携活動における現場経験によって学生の視野の拡大、実務能力の涵養と発信力の強化をめざす取組を計画の中心とする。それは就職指導や社会貢献活動と重なる部分もあるが、ここではあくまで博士後期課程の学生を対象とする研究者養成のための教育プログラムの一環としてとらえている。具体的には以下の四つの取組を主な柱とする。</p> <p>①芸術系の諸分野で、公共芸術施設、マスコミの文化部門などとの間にフォーラムを組織し、これら諸機関スタッフのリカレント教育、学生のインターンシップ、さらに共同企画などを実施して、「現場」での共同作業を組み込んだ教育システムを形成する。</p> <p>②歴史系の諸分野で、高校・予備校教員・出版社員などのリカレント教育事業への参加、高校・大学レベルの教科書、副読本作りへの参加などを通じて、研究成果の要約・解説の訓練を施す。</p> <p>③文学語学系の諸分野で、大学レベルの教科書、副読本作りへの参加を通じて、研究成果の要約・解説の訓練を施す。</p> <p>④本研究科に留学経験があつて現在外国で就業している人々とのネットワークを整備し、ニーズに応じて彼らのもとに学生を時限的に派遣し、教育その他の業務の補助を経験させる。</p> <p>なお、本研究科は人文学の素養のある高度専門職業人の養成をもうひとつの教育目的としているが、上記の諸取組がこの目的にも適うものであることはいうまでもない。</p>			

6. 履修プロセスの概念図

ソーシャルネットワーク型人文学教育の構築



機 関 名	大阪大学	整理番号	a015
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 904">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 967 633 1001">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1016 1428 1335" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 1016 1428 1193">・「研究科と諸組織の連携活動における現場経験によって、学生の視野拡大・実務能力の涵養と発信力の強化を目指す」という教育プログラムの着眼点は優れており、社会人リカレント教育への参加と、大学院生の国内外でのインターンシップというクロスオーバーが効果的に実施されれば、その相乗効果が期待される。 <li data-bbox="165 1209 1428 1335">・ただし、ソーシャルネットワークの型の教育の導入により、大学院生に従来の人文系大学院の枠組みを超えた活動の場を提供しようとする意図は理解できるものの、それによってどのように大学院生の能力の向上が図られるかについて、より明確にすることが望まれる。 			